



栃木県立足利南高等学校 平成 28 年度 総合学科通信 第 3 号

No.46
(2017/3/24発行)

校長より

校 長 柳沼 倫明

「飛躍の年に」

40周年ということもあり、たくさんの行事のあった1年間でした。学校祭があり、40周年記念式典がありました。どれも思い出に残るすばらしい行事でしたが、総合学科高校である足南高の視点から見ると、やはり総合学科発表会が一番印象深いように思います。理由として、発表内容がどれも力作前(ぞろ)いだったことありますが、発表した皆さんのこの3年間の学習や研究の様子が手に取るように見て取れて、「なるほどなあ」と納得させられる発表がたくさんあったことが大きいと思います。その人の努力や工夫の跡が見て取れる発表というのは、聞いていてとても清々(すがすが)しく感じるものです。

さて、にぎやかだった一年が終わり、新しい年度を迎えます。そして、学校は大きく変わろうとしています。本校では本年度、学校改革プロジェクトチームを立ち上げて、新しい足南高の在り方を議論してきました。そこでの議論をとおして、何を教えるか、どのような生徒を育てたいか、そういったことが今までよりずっと明確になってきました。来年度は、その議論を踏まえて、生徒の皆さんの実態に即した新たな施策がいくつも実施されることになります。在校生の皆さん、そして新たに入学してくる皆さん、さらには地域の皆さんの期待に応えられるように、教育内容の充実を図っていきたいと思っています。ご期待ください。

後期スポーツデイ

生徒会係 須田 俊幸

12月20日(火)に後期スポーツデイを行いました。生徒会を中心に内容を変更し、午前中にサッカー(男子)、バレーボール(女子)の球技種目、午後からはクラス対抗リレーと大縄跳びを行いました。当日は気温も上がり、白熱した試合が展開され、元気な声がグラウンドと体育館いっぱいに響き渡っていました。3年生にとっては最後のスポーツデイということもあり、各クラスとも緊迫した手に汗握る戦いを繰り広げてくれました。

【スポーツデイの結果】

	サッカー	バレー	リレー	大縄跳び	総合結果
1位	2-4	3-5	3-2	3-2	3-3
2位	3-2	3-3	3-3	3-3	3-2
3位	3-3	3-4	1-4	3-4	3-4



総合学科発表会

総合推進部長 藤谷 知仁

平成28年度総合学科発表会が、平成29年1月21日(土)に本校第1体育館にて行われました。1年生の「ライププラン発表」から学年代表2名、2年生の「ミニ課題研究発表」から学年代表2名の発表に続き、3年生の「課題研究発表」から5系列の代表16名が発表してくれました。各学年、各系列の代表者の発表ということもあり、いずれの発表とも分かりやすくまとめられていて、素晴らしいものばかりでした。特に自分が設定したテーマを1年かけて研究し、実践し、それをまとめ発表した3年生の「課題研究発表」は、1、2年生にとって今後の課題研究の参考になるのではないかと思います。

また、家庭クラブが本年度栃木県の研究発表大会で日頃の活動について発表したものを、本校生にも披露してくれました。パワーポイントや動画を使っの発表は、素晴らしいものでした。

本年度も多くの中学生や保護者の方々が、足を運んで下さいました。この場を借りて御礼申し上げます。来年度の発表会は、さらに多くの方々に足を運んでいただけるようなものにしていただければと考えています。

講座発表会

学習指導部長 浅間 和子

平成29年1月21日、総合学科発表会の午後の部として、メディアホールと第1体育館を会場に講座発表会が行われました。第1体育館ステージでは音楽選択者による独唱、合唱、バイオリンの合奏、体育選択者によるダンスパフォーマンスが披露され、拍手喝采を浴びていました。音楽Ⅱの発表は昨年の経験を生かしさらにレベルアップした発表となっており、1年間の成長が感じられるものでした。ダンスパフォーマンスは、それぞれのグループが協力し合っ作り上げたダンスを、生き生きとした表情で発表していました。2階には家庭科、美術、書道の授業選択者の作品が展示され、生徒たちは一つ一つの作品に興味深そうに見学していました。

また、メディアホールでは「演劇Ⅰ」選択者による「沖縄に散ったひめゆりたち」が上演されました。青年劇場の先生方のご指導とご協力をいただき、公開講座の受講生である一般の方々と作り上げた舞台は本格的な見応えのある作品に仕上がっており、観客席は感動に包まれていました。

来年度も、今年度以上に素晴らしい発表会になるよう努力していきますので、多くの方々にご来場いただければと思います。



歌舞伎発表会

「修善寺物語」に挑む一演劇Ⅱ歌舞伎発表会

授業担当 高久保 勲



本校の特色のある授業科目の一つに「演劇Ⅱ」(歌舞伎講座)があります。芸術系列の選択科目(2単位)で、毎週水曜日の5・6限目に授業があります。礼の仕方、着物の着方、たたみ方など日本文化の基礎知識から、日本舞踊や歌舞伎などの伝統芸能を実技まで含めて学んでいます。本年度は、2学期から新歌舞伎と呼ばれる「修善寺物語」を取り上げました。

「もっと声を出して。」「早くセリフを入れないと演技指導が出来ないぞ。」「手傷を負った人の歩き方はこう歩くんた。」「袴はこうしてたたむんだ。」などさまざまな

指導の言葉が飛び交います。初めて歌舞伎を学ぶ生徒も大変ですが、指導の方はもっと大変です。

修了公演は1月25日(水)に本校メディアホールで行われました。「修善寺物語」は一幕三場、明治時代に上演された岡本綺堂の代表作です。いわゆる「義太夫狂言」と違い、地方(じかた)もなく役者の演技力が問われる難しい作品です。稽古時間が不足するなか、本番はどうなるか、はらはらしましたが、なんとか無事上演できたことは素晴らしいことでした。アンケートでは、今回の歌舞伎の発表会を見た3年生の6割が、伝統芸能に興味、関心を持つようになったと回答してくれたのは、うれしいことです。



東京インドネシア学校訪問

生徒会係 伊勢 孝和

平成29年1月25日(水)、東京都目黒区にある東京インドネシア共和国学校(以下、インドネシア学校)に、前・後期生徒会役員21名、ICE部員5名、及び、本校職員5名の合計31名で訪問しました。午前10時過ぎに到着後、講堂にて、交流会開会式にて、インドネシア学校長スシアンダリ先生からのご挨拶、本校教頭からの挨拶、それから両校の記念品交換が行われました。その後、毎回恒例となっている、フロアーボール(グラウンドホッケーのようなスポーツ)を両校の生徒が試合形式で戦いました。試合終了後、六つのグループに分かれての両校生徒の懇談会が行われ、自己紹介や学校生活など、徐々にお互いを知り合いながら、話に花を咲かせていました。それから、地下一階にてインドネシア料理の給食を全員でいただきました。イスラム教徒が大半を占めるインドネシアでは、肉類に関して特に制限が多いのですが、それでも、スパイシーなソースも含め、舌鼓を打ちました。

午後には、最初にインダンと呼ばれる西スマトラ島の伝統舞踊を、舞踊専任のリナ先生とダンス部の生徒たちから教わり、悪戦苦闘しながら、最終的には両校生徒全員で踊りきることができました。その後、インドネシア学校生徒会代表のエリカさんとノムジャくんの、日本語が大変流ちょうな2人によるインドネシア語講座が行われました。本校生徒の数名が前に出て、挨拶や、名前、趣味などをたどたどしくもインドネシア学校の生徒と交わすことができ、大いに盛り上がりました。続いての質疑応答では、主に学校生活について、日本の学校とインドネシア学校の違いについて理解を深めることができ、大いに盛り上がりました。最後には、写真撮影が行われ、学校を後にしました。今回も、前回に引き続き、別れが名残惜しく、生徒同士で話をしたり、インドネシア学校の生徒が持ってきたカメラで写真を撮ったりしていました。

昭和57年度から途切れることなく交流が続いているインドネシア学校との相互訪問が、今後も続くことを切に願っています。インドネシア学校の関係者の皆様方にこの場を借りてお礼を申し上げます。



3学年より

「卒業を迎えて」

平成29年3月1日総合学科第15期生が、本校を卒業していきました。この日が来ることを分かっていたながらも、これまでの3年間を振り返ると、涙が止まらなくなりました。納得のいく進路を迎えることができたであろう卒業生には、これまで、将来について考える機会と、学習と生活において努力する機会を用意してきました。これからの進む道においても、自ら考え、自ら決断して、納得のいく人生を歩んでいくことでしょう。決して楽ではないと思いますが、これまでの、18歳までの経験が皆さんのこれからを強く支えることでしょう。皆さんの今後の活躍を期待しています。

学年主任 野口 徳雄



2学年より

学年主任 厚木 範之

「総合学習Ⅰを振り返って」

本校では2年次に総合学習Ⅰを毎週月曜5時間目に行っています。主な学習内容は①ミニ課題研究、②修学旅行事前学習、③進路学習、④3年次の時間割見直し、⑤3年次課題研究テーマ設定等です。

- ①ミニ課題研究・・・1年次の3学期にミニ課題研究として修学旅行に関する沖縄の自然、観光、芸術、生活、食の5つのテーマからグループ研究の形式で行いました。
2年次においては個人研究の形式で各自が人文社会、自然科学、芸術・スポーツ、情報、生活デザインの5つの系列に分かれ、興味関心のあるテーマを設定し新聞、書籍、インターネット等で調べ研究内容をクラス毎で発表しました。
- ②修学旅行事前学習・・・沖縄への事前学習として1年次での「月桃の花」の映画視聴をうけて2年次では沖縄戦や沖縄の歴史や基地問題などを学びました。
- ③進路学習・・・進路ガイダンス、進路講話、スクールインターンシップⅡ、進路講演会などの行事を通して進路について考えを深めることができました。
- ④3年次時間割の見直し・・・自分の希望進路を考え、1年次で決めた科目の見直しが行われました。
- ⑤3年次課題研究テーマ設定・・・系列の先生方のアドバイスを受けながら3年次の課題研究のテーマを設定しました。

以上、総合学習Ⅰを踏まえ、来年度毎週木曜日⑤⑥限に行われる課題研究をよりよいものしていければと思っています。さらに進路実現に向け充実した研究活動ができればと思います。そして来年1月に行われる総合学科発表会での課題研究発表が今年の3年生に負けず劣らず、より良い発表ができるように生徒共々頑張っていきたいと思っています。

1学年より

学年主任 安塚 正史

「1年を振り返って」

17期生が入学してから、早いものでもう1年が経ちます。入学式では、真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで着席していた姿が思い出されます。今では、高校生という自覚を持ち始め、今後の生き方や進路について真剣に考え努力する様子が少しずつですが見られるようになってきました。総合学科である本校は、1年次に「産業社会と人間」という科目を毎週2時間実施してきました。その内容としては、色々な職業について知る職業ガイダンスや系統別進路ガイダンス、自分の進路にあった2、3年次の時間割作成、自分の将来の夢を文章に綴るライフプラン、グループで1つの課題について調べ研究発表を行うミニ課題研究など、この授業を通して生徒が自分自身をよく見つめ今後の進路について考えていきます。学年末に「産業社会と人間」についてのアンケートを生徒から取りました。その中で、生徒が答えてくれた意見をいくつか紹介いたします。「今まで、自分の将来の夢について考えることは一度もありませんでした。『なんかかなるだろう』と思っていました。でも、この授業で深く考えることができる時間が持ててとても良かったです。」「この1年間で、自分の将来について考え、調べ、知ることができました。夢の確定ができたのに加え目標も立てることができました。」「今までの学校生活の中でこんなに自分について考えることはなかったと思うので、これからの良い勉強になりました。」「今考えると、中身が詰まった1年間の授業だった。進路について自分が全然考えていなかったことを改めて知ることができた。」「4月頃は進路について全然考えていませんでした。ですが、授業を重ねていくごとに『そろそろまじめに考えないといけないんだなあ』と危機感を感じてきました。」「など、それぞれが自分の将来を考え希望や不安を抱えつつも、真剣に自分自身と向き合えたように感じます。今後は、この一年間の経験を生かし、自分の将来に向け生徒1人1人が更なる成長をしていくことを期待しています。



発行：栃木県立足利南高等学校

教務部広報係

TEL：0284-72-3119(事務室)

FAX：0284-73-2772

TEL：0284-72-3118(職員室)